

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）看護学科2年課程】

【必修・選択】	【必修】	配当学年・時期	2年次・前期	担当講師名
分野等	統合 在宅看護論	単位数・時間数	1単位 30時間	外部講師 専任教員
授業科目名	在宅看護概論	授業回数	14回 + 試験	
【ねらい・授業目的・目標】				
<p>ねらい：在宅看護を展開する上で必要な知識を学習する。</p> <p>目的：傷病、障害をもちながら在宅で療養・生活する人とその家族の特性、在宅という場の特性、地域ケア体制を理解し、歴史の中で育まれてきた在宅看護の現状と展望を踏まえ、在宅において看護職の果たす役割を理解する。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の歴史的変遷をふまえ、在宅看護の目的と在宅における看護師の役割を理解する。 2. 在宅看護の対象（療養者・家族）の特性とニーズを理解する。 3. 在宅看護が実施される場と在宅看護の特性を理解する。 4. 在宅看護に関する諸制度、在宅ケア体制、保健・医療・福祉の連携の必要性について理解する。 5. 在宅療養者と家族との信頼関係をはかるための基本姿勢、居宅訪問に必要なマナーを身につけ、在宅看護における援助関係の基本を理解する。 6. 在宅看護過程を展開するための基礎を理解する。 				
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態
A	1	在宅看護を学ぶにあたって 在宅看護の目的と特徴		講義・GW
	2	在宅看護の対象者①		
	3	在宅看護の対象者②		
	4	在宅療養の支援		
	5	在宅看護にかかわる法令・制度とその活用		
	6	療養上のリスクマネジメント 在宅における権利保障		
	7	療養者における在宅看護		
B	1	「プロフェッショナル・仕事の流儀 どんときでも命は輝く」視聴 レポートテーマ		講義 DVD視聴 レポート 個人ワーク GW
	2	・感じたこと、考えたこと、在宅看護の特徴として学び取ったこと		
	3	・今私達が生活している地域・社会はどうなっている？		
	4	在宅看護における倫理的課題		
	5	家族看護学：家族を対象にした家族看護の基本を理解する 事例を通し家族看護過程の展開方法を理解する		
	6	レポートテーマ：家族看護過程の展開事例を読み感じたこと、考えたこと		
	7	介護保険、ケアマネジメントの基礎知識を身につけ、介護保険、ケアマネジメントと在宅看護過程の展開の関係を理解し、連携の必要性を学ぶ。		
		学科終了試験		
【使用テキスト】				
・系統 専門 地域・在宅看護の基盤 医学書院 ・介護保険のしおり・介護予防パンフレット				
【単位認定方法】 評価割合；単元A 50%、単元B 50%				
A：授業への参加状況、筆記試験 B：筆記試験80% レポート20% ・総合評価として60点以上を合格とする ・不合格の場合再試験実施(70点以上合格) ・再試験でも合格できない場合は、単位落しとなる。(次年度、再取得)				
【実務経験と当該科目との関連】 ・実務経験がある訪問看護師と臨床経験がある専任教員が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）看護学科2年課程】

【必修・選択】	【必修】	配当学年・時期	2年次・前期	担当講師名
分野等	統合 在宅看護論	単位数・時間数	1単位 30時間	専任教員
授業科目名	在宅看護の方法 I	授業回数	14回 + 試験	
【ねらい・授業目的・目標】				
<p>ねらい：在宅看護概論で履修した知識をもとに在宅の場の特殊性を考慮し、在宅看護を展開するための援助方法を学習する。</p> <p>目的：傷病、障害をもちながら在宅で療養・生活する人とその家族の健康問題を把握し、ニーズに基づく生活行動の支援方法および社会資源の活用方法を理解し、対象に必要な在宅看護の展開方法を理解する。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養者と家族の健康問題を把握し、問題を解決するために必要となる在宅看護過程の展開方法を理解する。 2. 在宅看護の事例演習をとおり、個々の対象の特性、在宅ケア支援のための保健・医療・福祉のネットワークの活用方法、看護の継続の方法について理解する。 3. 在宅看護の事例演習をとおり、対象の日常生活と家族支援の視点および自立、QOLの向上をはかるための生活支援の方法を理解する。 4. 終末期および見取りへの本人、家族のケアの理論、方法を理解する。 5. 介護保険、社会資源に関する知識を身につけケアマネジメント、ケアプランの意義を理解しケアチームの中の看護の役割を考えることができる。 6. 在宅で必要とされる在宅医療技術の基本を理解する。 7. 在宅療養者と家族との信頼関係をはかるための基本姿勢、居宅訪問に必要なマナーを身につける。 8. 在宅看護論の実習方法の視点を理解する。 				
授業回数	【授業内容】			学習形態
1	序章 地域・在宅看護の実践 第1章 地域・在宅看護の展開 A地域・在宅看護における看護過程 B地域・在宅看護過程の展開方法			講義 個人ワーク レポート GW
2	第2章 暮らしを支える看護技術 A暮らしの場で看護をするための心構え B地域・在宅看護における家族を支える看護			
3	第3章 地域・在宅における時期別の看護 D在宅療養準備期（退院前）の看護 E在宅療養移行期の看護 F在宅療養安定期の看護 G急性増悪期の看護 H終末期の看護			講義 個人ワーク GW
4	事例～時期別ケアマネジメント、看護過程の展開を学ぶ。 第6章 地域・在宅看護マネジメント			
5	第4章 地域・在宅看護の事例展開 D慢性閉塞性肺疾患（COPD）の療養者の事例展開 在宅における呼吸管理、在宅酸素療法について学ぶ。			講義 個人ワーク
6	第4章 地域・在宅看護の事例展開			個人ワーク DVD
7	E筋萎縮性側索硬化症（ALS）の療養者の事例展開			
8	事例～在宅看護過程を展開する。			
9	第5章 地域共生社会における多職種連携・多職種チームでの協働			
10	第4章 地域・在宅看護の事例展開			講義 ビデオ 個人ワーク
11	Iがん終末期の療養者の事例展開	在宅ターミナルケア		
12				
13	第4章 地域・在宅看護の事例展開 H認知症高齢者の事例展開			講義 GW
14	ALSの療養者の在宅看護過程の展開 総括 地域・在宅における倫理的課題 訪問看護師の基本姿勢、マナー、倫理 付章 A訪問看護実習の手引き 訪問看護師の1日の流れ			講義 レポート
	学科終了試験			
【使用テキスト】				
<ul style="list-style-type: none"> ・系統 専門 地域・在宅看護の実践 医学書院 ・経過別成人看護学 終末期看護：エンドオブライフケア メヂカルフレンド社 				
【単位認定方法】 筆記試験 50% 在宅看護過程の展開、レポート 50%				
<ul style="list-style-type: none"> ・総合評価として60点以上を合格とする ・不合格の場合再試験実施(70点以上合格) ・再試験でも合格できない場合は、単位落しとなる。(次年度、再取得) 				
【実務経験と当該科目との関連】 ・臨床経験がある専任教員が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）看護学科2年課程】

【必修・選択】	【必修】	配当学年・時期	2年次・後期	担当講師名
分野等	統合 在宅看護論	単位数・時間数	1 単位 30 時間	外部講師
授業科目名	在宅看護の方法Ⅱ	授業回数	14回 + 試験	
【ねらい・授業目的・目標】				
<p>ねらい：基礎看護技術を応用し、在宅で必要とされる生活支援の方法と技術を学習する。 在宅における医療管理を必要とする人とその看護を学習する。</p> <p>目 標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の日常生活と家族支援の視点および自立、QOLの向上をはかるための生活支援方法を理解し、在宅で必要とされる看護技術を身につける。 2. 在宅療養者と家族との信頼関係をはかるための基本姿勢、居宅訪問に必要なマナーを身につける。 3. 在宅で必要とされる在宅医療技術の基本を理解する。 				
授業回数	【授業内容】			学習形態
1	総論—在宅看護の特性、視点			講義
2	療養環境調整に関する在宅看護技術			講義
3	呼吸・循環に関する在宅看護技術			講義
4	在宅酸素療養、人工呼吸療法、呼吸リハビリ、排痰法など			講義・実技
5	食生活、嚥下に関する在宅看護技術			講義
6	在宅での栄養管理（経管栄養法、中心静脈栄養法他）			講義・実技
7	排泄に関する在宅看護技術			講義
8	尿道留置カテーテル、ストーマ等の管理とケア			講義・実技
9	清潔、衣生活に関する在宅看護技術			講義・実技
10	褥瘡の予防とケア、在宅でわかりやすい皮膚疾患とケア			講義・実技
11	活動に関わって、移動・移乗に関する在宅看護技術			講義・実技
12	認知症の在宅看護と家族支援			講義
13	外来ガン治療の支援、疼痛緩和の看護			講義
14	在宅におけるエンドオブライフケア			講義
	学科終了試験			
【使用テキスト】				
<ul style="list-style-type: none"> ・系統 専門 地域・在宅看護の実践 医学書院 ・経過別成人看護学 終末期看護：エンドオブライフケア メヂカルフレンド社 				
【単位認定方法】 筆記試験 100%				
<ul style="list-style-type: none"> ・総合評価として60点以上を合格とする ・不合格の場合再試験実施(70点以上合格) ・再試験でも合格できない場合は、単位落としとなる。(次年度、再取得) 				
【実務経験と当該科目との関連】 ・実務経験がある訪問看護師が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）看護学科2年課程】

【必修・選択】	【必修】	配当学年・時期	1年次・後期	担当講師名
分野等	統合 看護の統合と実践	単位数・時間数	1 単位 30 時間	外部講師 教務課長
授業科目名	看護管理と災害・国際看護	授業回数	14回 + 試験	
【ねらい・授業目的・目標】				
単元 A	<p>看護管理は新しいヘルスケアシステムを創造し、チームや組織、システムを動かしていく活動である。限りある人的資源、物的資源、材的資源をどのように有効利用するかが重要でありそれを維持活用するための「しくみ」が看護管理である。チームや組織をつくり、動かしていくことは管理者だけの仕事ではなく、ケアを提供している全ての看護職が担う役割でもある。看護管理は、看護を仕組みとしてとらえ、それがどのようになっているのか、問題は何かどのような改善策があるのか、どのようにすればよりよい看護が提供できるのかなどを追及するものであり多数の人々がともに働くための技である。</p> <p>目的：医療チーム及び他職種との協働の中で、看護師としてのメンバーシップ、リーダーシップを発揮し、専門分野 I、専門分野 II で学んだ内容を臨床の場で実際に活用し看護をマネジメントできる基礎的能力を養う。</p> <p>目標：1. 看護の機能を統括的に理解し、管理の実際、人材育成、看護管理者の役割と責任を理解し看護をマネジメントできる基礎的知識を学ぶ。 2. 今日の医療、医療保険（診療報酬）の仕組みを理解し、医療チームの一員として看護を实践、遂行できる能力を身につける。 1) 日本における医療システムの学習をとおして医療問題の構造や日本の医療システムの特徴を学び医療がめざすものについて考える。 2) チーム医療および他職種との協働、チーム医療の中での看護の役割について理解する。 3. 看護師のチームの中でメンバーの役割、リーダーの役割について学ぶ。</p>			
単元 B	<p>-災害看護-目的：災害という特殊な状況の中で人々の生命や健康生活を支えるための災害看護の特徴役割を理解し、災害サイクルの各段階において必要となる看護を实践するための基礎的能力を養う。</p> <p>目標：1. 災害の定義および災害医療・災害看護の概要を理解する。 2. 災害が人々の健康や生活に与える影響を理解し、災害サイクルにおける保健医療ニーズと活動の場に応じた看護を理解する。 3. 我が国における災害対策と災害救助活動を通して国際協力の必要性について理解する。 4. 災害時に必要な看護実践の基本を理解し、看護師として一市民として災害にむけた日頃の備えの必要性を理解する。</p> <p>-国際看護-目的：国際社会における保健医療福祉の実情を知り、広い視野に基づき看護師として国際協力、国境を越える看護の役割と課題について考えることができる基礎的能力を養う。</p> <p>目標：1. 国際看護学の概念、変遷を把握し、国際的な視野をもつことの意味、国際看護学を学ぶ意義を理解する。 2. 国際的にどのような健康問題が課題になっているのか、国際社会における保健医療福祉の実情を知り国際協力について考える。 3. 看護の国際協力にはどのような組織、しくみが関わっているのかを理解する。</p>			
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態
A	1	看護管理学とは 看護におけるマネジメントの考え方の変遷 看護ケアのマネジメントプロセス 看護ケア提供者としての機能・サービスとしての看護		講義 GW
	2	安全管理・安全管理対策の重要なポイント 医療事故対策・院内感染対策・災害対策 事故事例 チーム医療・地域における看護・地域医療連携		
	3	看護業務の実践・看護基準と看護手順 情報の活用・診療情報等の記録の役割・看護記録の目的と意義 看護記録の構成・看護記録の基本的なポイント 記録事例 看護サービスのマネジメントの対象と範囲		
	4	組織目的達成のマネジメント 所属施設の組織の理念、方針、目標についてGW 看護の組織化・組織の形とその意味・看護部組織における職位と役割		
	5	組織マネジメントの基本・マネジメントとリーダーシップ 看護職のキャリアマネジメント・教育制度 看護サービス提供のしくみづくり 看護ケア提供システム		
	6	看護を取り巻く諸制度：看護職の法的責任 看護職と法・制度 医療制度：医療保険制度・医療法に定義されている医療提供施設、病床区分・診療報酬の体系		
	7	まとめ ①授業振り返り ②グループワークと発表		
B	1	災害看護学 A災害看護の歩み 1救護活動としての災害看護のはじまり 2災害の体験から求められる看護の役割の拡大		GW 講義 DVD
	2	B災害医療の基礎知識 1災害の定義 2災害の種類と健康被害		
	3	3災害医療の特徴 4マスギャザリングとNBC災害への対応 5災害と情報 6災害対応にかかわる職種間・組織間連携 7災害看護と法律		
	4	C災害看護の基礎知識 1災害看護の定義と役割 2災害看護の対象 3災害看護の特徴と看護活動		
	5	D災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護 1急性期・亜急性期 2慢性期・復興期 3静穏期 F災害とこころのケア		
	6	国際看護学・国際看護学とは何か ・開発途上国の定義 ・健康と保健医療の世界的課題 ・国際協力のしくみ ・国際保健の基本理念（・国際看護活動の展開） ・在日外国人		
	7	の看護と異文化理解		
学科終了試験				
【使用テキスト】 *医学書院				
・系看 統合 看護管理 ・系統 専門分野 I 看護学概論 ・系看 統合 災害看護学・国際看護学				
【単位認定方法】 評価割合；単元A 50%、単元B 50% 評価方法：筆記試験				
・総合評価として60点以上を合格とする ・不合格の場合再試験実施(70点以上合格)				
・再試験でも合格できない場合は、単位落としとなる。(次年度、再取得)				
【実務経験と当該科目との関連】 ・実務経験がある看護師と臨床経験がある教務課長が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）看護学科2年課程】

【必修・選択】	【必修】	配当学年・時期	I：2年次 II：3年次	担当講師名
分野等	統合 看護の統合と実践	単位数・時間数	I：1単位 15時間 II：1単位 15時間	外部講師 専任教員
授業科目名	看護研究の基礎 I・II	授業回数	I・II 各7.5回	
【ねらい・授業目的・目標】				
目的：看護実践における研究の意義を理解し、将来、看護者として自ら研究を行える基礎的能力を身につける。				
目標：				
1. 看護実践における研究の意義が理解できる。				
2. 研究テーマの発見の仕方がわかる。				
3. 文献検索の意義・方法が理解できる。				
4. 研究計画の立て方がわかる。				
5. 実験研究の方法が理解できる。				
6. 調査研究の方法が理解できる。				
7. 事例研究の方法が理解できる。				
8. 論文構成とまとめ方のポイントがわかる。				
9. 研究発表の意義・方法がわかる。				
	授業回数	【授業内容】		学習形態
I	1	・看護研究とは何か ・看護実践における研究の意義とは ・基本的な用語の解説		講義 個人ワーク レポート作成 グループワーク 発表
	2	・研究全体の流れについて ・研究テーマの発見・選定の仕方 ・文献検索の方法		
	3	・研究デザインとは ・事例研究 ・実験研究と調査研究		
	4	・研究計画とは ・例を参考に研究計画書を作成する		
	5	・研究計画書の作成と発表、学びの共有		
	6	・看護研究と倫理的配慮 ・看護研究における重要なキーワードのまとめ		
	7	・論文構成の基本と論文作成の実際 ・これからの看護研究の役割 ～EBN発展のために		
		学科終了試験		
II	1 ↓ 7.5	研究発表の意義 研究発表の方法 研究発表の準備 実践 学内ケーススタディ発表会		論文作成 論文発表
【使用テキスト】				
・これからの看護研究 -基礎と応用- (ヌーヴェルヒロカワ)				
【単位認定方法】				
I：レポート課題 10% 学科終了試験 90%				
II：論文作成・学内ケーススタディ発表会				
・総合評価として60点以上を合格とする ・不合格の場合再試験実施(70点以上合格)				
・再試験でも合格できない場合は、単位落しとなる。(次年度、再取得)				
【実務経験と当該科目との関連】 ・実務経験がある看護師・保健師と臨床経験がある専任教員が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）看護学科2年課程】

【必修・選択】	【必修】	配当学年・時期	2年次・後期	担当講師名
分野等	統合 看護の統合と実践	単位数・時間数	1 単位 15 時間	専任教員
授業科目名	看護における安全学	授業回数	7回 + 試験	
【ねらい・授業目的・目標】				
目的：看護・医療システムの危険因子を知り、看護・医療事故を防止し安全な看護を提供するために必要な知識・技術・態度を習得する。				
目標：				
1. 医療安全の歴史と、組織的な安全管理体制への取り組み。医療安全対策の国内外の潮流を知ることができる。				
2. 人間の行動にはヒューマンエラーが存在することを理解し、看護・医療事故を自分自身に生じる身近な問題として捉えることができ、看護職者の責任と役割を説明できる。 (自分自身も被害者・加害者となりうる事も含む)				
3. 看護・医療の現場に潜む看護・医療事故の危険因子を総合的に判断できる。 看護を安全に提供するために必要な事故防止策を組織的・個人的な取り組みに分けて説明できる。				
4. 安全な看護を提供するために、自己の看護技術や技能を熟練・向上するために継続的に学習する能力を習得する。				
授業回数	【授業内容】			学習形態
1	医療安全の歴史と医療、看護を取り巻く状況			講義
2	医療安全の概念の導入 GW：不確かな者同士で確認する危うさ・・・ ・スイスチーズモデル			講義 GW
3	医療安全に対する最近の動向・考え方 GW：誤薬注射事故はなぜ起きたのか			講義 GW
4	医療安全のマネジメント GW：「あずみのの里」での死亡事例を通して医療事故の背景を考える ミスを防ぐための対策 ・RCA（根本原因分析）・4M5E分析 ・p-mSHELL分析			講義 GW
5	事故後の対応 GW：あせりやあわて・・・			講義 個人演習
6	ミスを防ぐための対策 KYTの実際			講義 GW
7				
学科終了試験				
【使用テキスト】				
<ul style="list-style-type: none"> ・医療安全 看護学テキスト 統合と実践 Gakken ・看護者の倫理綱領 照林社 ・医療安全ワークブック 医学書院 				
【単位認定方法】				
筆記試験 90% レポート 10% 欠席 -5点				
<ul style="list-style-type: none"> ・総合評価として60点以上を合格とする ・不合格の場合再試験実施(70点以上合格) ・再試験でも合格できない場合は、単位落としとなる。(次年度、再取得) 				
【実務経験と当該科目との関連】 ・臨床経験がある専任教員が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）看護学科2年課程】

【必修・選択】	【必修】	配当学年・時期	2年次・後期	担当講師名
分野等	統合 看護の統合と実践	単位数・時間数	1 単位 30 時間	専任教員
授業科目名	看護技術の統合	授業回数	15回	
【ねらい・授業目的・目標】				
<p>目的：領域別実習に沿った状況設定課題に対して自己学習を積み重ね、三側面を考えた看護技術の習得を目指す。</p> <p>1. 臨床看護の場で遭遇するであろう事例に対して、看護者として適切な看護技術を考え、模擬患者でシミュレーションし、最低限身に付けて欲しい臨床実践能力を養う。</p> <p>2. 学習を通して、自己の課題を明確にする。</p> <p>目標：</p> <p>1. 事例から、観察や判断・推論に必要な医学的かつ看護学的知識を使い、看護を考えることができる。</p> <p>2. 設定課題に応じた看護技術が安全・安楽に行うことができる。</p> <p>3. 対象を尊重し、その場に応じたコミュニケーションを行うことができる。</p> <p>4. 実施した看護場面を看護実践記録として記述し、アセスメント及び評価できる。</p> <p>5. 今後に向けて自己の課題を明確にすることができる。</p>				
授業回数	【授業内容】			学習形態
1	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・技術試験領域の状況設定課題の説明 ・各領域の課題ごとに個人ワーク 			講義 個人ワーク
2 3	<ul style="list-style-type: none"> ・個人ワーク 			個人ワーク
4	<ul style="list-style-type: none"> ・4名編成のグループごとに、個人ワーク内容を共有し、技術練習計画を立てる 			GW
5 6	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごと各状況設定課題の技術練習 ・練習終了後、グループ間で振り返り、振り返りシート記載 			グループ練習
7	<ul style="list-style-type: none"> ・各状況設定課題について、質問受付及び助言 ・技術練習、振り返り 			グループ練習
8 9	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごと各状況設定課題の技術練習 ・練習終了後、グループ間で振り返り、振り返りシート記載 			グループ練習
10 11 12	<ul style="list-style-type: none"> ・技術試験 			
13 14 15	<ul style="list-style-type: none"> ・状況設定課題別ディスカッション及び全体発表 ・個人の振り返りと次年度への課題 			GW 個人ワーク
【使用テキスト】				
系看専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ（医学書院） 他				
【単位認定方法】				
<ul style="list-style-type: none"> ・小児看護学、成人・老年看護学のいずれかの技術試験を行う ・評価内訳：技術試験 80%、提出物 20%（ルーブリック評価） ・100点満点とし、60点以上を合格とする ・不合格の場合再試験実施(70点以上合格) ・再試験でも合格できない場合は、単位落しとなる。 				
【実務経験と当該科目との関連】 ・臨床経験がある専任教員が担当				